

(八代清流) 高等学校 平成 30 年度学校評価表

1 学校教育目標
生徒の無限の可能性を引き出すのは我々教師であり、妥協することなく徹底した指導を根気よく続けることが大事である。高校生活 3 年間で人生の最も基礎・基本となることを我々教師は知っている。生徒一人ひとりの財産づくりを支援していくことに全力を挙げ、次に示す人間の育成を目指す。
(1) 豊かな人間性をもち、「自律」した判断・行動ができる次代を担う人間
(2) 目標を高く掲げ、常に「進取」の気概をもって挑戦し、創造への意欲を燃やす人間
(3) 文武両道を目指し、心身を「錬磨」することにより、活力に満ちた逞しい人間

2 本年度の重点目標
(1) 感動ある教育を展開し、地域の進学等希望者の夢を地域で叶える学校を目指す。
(2) スポーツが盛んで、文化の香りのする学校を目指す。
(3) 生徒・保護者・地域住民に信頼され、愛される学校を目指す。

A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	今後の学校経営の方向性の具体化	大学入試改革プロジェクトチームによる提言と実践	大学入試改革や次期学習指導要領改訂に対応できる組織作りと授業実践	プロジェクトリーダーを中心に、教務主任、進路指導主事、教科代表から成るプロジェクトチームが提言し、研修を行い、全教員が授業改善に取り組む。	B	授業改善プロジェクトを発展再編した大学入試改革プロジェクトチームをつくり、リーダーを置いた。「生徒につけさせたい力」の検討、外部講師を招いた研修、調査書や推薦書に関する研修など、効果的な研修を実施することができた。
	安全な学校づくり	安全管理の徹底と整備	日常にひそむ危険箇所の把握と早期対応	危険箇所があることを前提とした安全点検を年に 2 回実施し、危険箇所の発見、周知、改善を行う。	B	安全点検を 2 回実施したが、前回で指摘された箇所があらためて指摘されることはなく、迅速に改善した。予算や業者が必要な箇所に関しては、時間がかかるが、改善に向けて準備中である。
		危機管理意識の向上	危機管理マニュアルによる意識の共有化	実践的な防火防災訓練の実施と改善、生徒への緊急対応（処置）の周知徹底を図る。	B	地震訓練と防火訓練を実施し、有事の際にとるべき行動を周知した。多くの職員は緊張感をもって参加することができたが生徒に当事者意識を持たせることが課題である。今後も防災に対する意識向上を図りたい。

	八代清流高校の評価向上	八代清流高校の周知	PR方法の工夫及び本校の取組の周知	<ul style="list-style-type: none"> 八代管内等の中学校に担当者をつけ、中学校との連携を強化する。 HPの即時更新 	B	中学校ごとに担当職員担当を割りあて、定期的な中学校訪問を実施した。「学校説明会」や「清流の日」の案内などを行うとともに、出身生徒の情報も提供することで中学校との連携を深めた。訪問回数については、中学校の意向も聞きながら検討する。
		進学重視型単位制の周知	進学重視型単位制の特徴やメリットをPR	<ul style="list-style-type: none"> まず職員が単位制や本校のシステムを理解する。 説明資料の見直し 	B	年次ごとの説明会を行った。単位制ガイダンスブックや配布プリントを見直し、より分かりやすいものを提供した。
学力向上	わかる授業の推進	職員の授業力の向上	授業評価システムと授業力向上を目指した公開（研究）授業の実践	公開（研究）授業、合評会及び教科会（課題共有）、授業評価、実践のサイクルによる授業評価システムを再構築するとともに、指導主事等を活用した研究授業を実施する。	A	授業研修週間・公開授業を通して、目指すべき授業の在り方を共有した。7月には授業研修週間におけるスーパーティーチャーの招聘、10月には「清流の日」における研究授業とパネルディスカッションを行った。一人一人の教師の授業力向上に向けて今後も継続して取り組む。
	自学自習できる生徒の育成	生徒の自主的な家庭学習への取組	生徒の家庭学習時間を増やすための工夫と、家庭学習のやり方を指導	年3回の家庭学習時間調査結果をもとに各教科で家庭学習時間増加のための方策を検討する。また、面談週間や家庭訪問を利用して、学習の仕方をアドバイスするよう努める。	C	家庭学習時間調査は年1回しか実施していない。また、第1回の結果うまく活用できていない。結果の把握とともに、家庭学習時間増加のための有効な仕掛けを行う必要がある。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	生徒の進路意識の改革	個に応じた進路実現と四年制大学への進学希望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 教務部単位制係と連携し、年6回程度行う面談の充実と1年次からの体系的な進路指導に努める。 スタディサプリの活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 複数面談を通じて、進路学習が進み四年制大学の進学希望者が1年次で特に増加した（4月44.6%→9月59.8%）。 スタディサプリの活用について視聴状況を調査し、視聴支援の一環として推奨コンテンツ紹介、視聴指導を実施した。一部の生徒の成績が視聴によって向上している。
		望ましい職業観・勤労観の育成	高大連携出張講座やインターンシップへの積極的な参加および資格取得、検定への挑戦の促進	LHRや総合的な学習の時間「プロメ・プラン」2年次のキャリアプランニング活動、大学訪問の充実を図る。	B	年次や総合的な学習の時間推進委員会との連携により、6期生を中心に充実したキャリア学習や探究活動が実施できた。

	希望する進路を実現するための学力等の育成	生徒の進路希望や学力等の的確な把握と指導	進路希望調査 ・模試データの有効活用。 課外授業、土曜講座の充実	・進路希望調査及び模試結果を分析し、個別面談に生かす。 ・課外、土曜講座の内容を充実し、出席率100%を目指す。	C	・調査や模験結果の分析は行っているが、全体の方針提示にとどまり、具体・個別的な目標設定、学習支援につなげることができていない。 ・課外授業の実施、受講は概ね良好だった。
		コミュニケーション能力等の育成	小論文指導や面接指導の充実	総合的な学習の時間の活用と、全職員による3年生への小論文・面接の個人指導の実施。	B	・総合的な学習の時間を中心に、生徒の学びや活動を振り返る活動を設定したことにより、表現力の育成指導が充実した。
生徒指導	生徒の自律心と自尊感情の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	生徒が自ら行動できる環境の整備	生徒が前面に立って自発的に協力して学校行事を運営するような取り組みを行っている。	B	・生徒会三役、執行部、委員会、部活動のリーダーを中心に、各行事での企画運営に取り組んだ。 ・指示を受けて動く姿勢から、主体的に考えて行動できる生徒を育てていくことが課題。
		基本的な生活習慣を確立させる。	時間の厳守 挨拶の励行	欠席数を減らす。 朝学習に遅刻させない。	B	・年次スタッフと連携し遅刻や欠席の生徒への呼びかけを行った。
	明るく楽しい学校づくり	問題行動やいじめのない学校づくり	問題の早期発見と素早い対応	アンケートの調査により、問題を発見し、早期かつ適切に対応する。	B	・調査結果に基づき、必要に応じて、面談を行うなど、事実確認および対応を速やかに行った。
	交通指導の強化	交通マナーの向上	交通講話の実施 二重ロックの推奨	・交通安全教育を徹底し、事故0とする。 ・生徒主体の二重ロック点検を実施し、二重ロック100%を目指す。	B	・交通安全教育、交通指導を実施した。交通事故が10件発生していることもあり、実態に即した安全教育が必要である。 ・二重ロックを各月で実施した。100%は1回のみである。今後も引き続き指導を行う。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすることを育むプログラムの推進	指導ユニットに従って、心に響く多様な指導を実施	全教科全領域で「生徒の命を大切にすることを育む指導」を実施する。	C	人権教育講演会やLHRなどで人権や個性を尊重することの大切さを学んだ。さらに学校全体で意識を高める取組を行う。
		自分の夢や目標を持たせ、人の役に立つことや尽くす姿勢を身に付けさせる。	キャリア教育の充実を図り、自分と他者の役割や価値を尊重する態度を育成	将来の目標の設定、自分の考えの発表などをおおして、目標達成のための具体策を考えさせる。	B	進学重視型単位制の教育課程において、生徒が自分のカリキュラムを考える過程で、個別面談や単位制面談を実施し、自らの将来を考える機会とした。

	職員の人権意識の高揚	職員研修の充実	校内研修会の計画的な実施及び外部研修会への積極的な参加	地域で実施される研修会への参加率向上を目指す。校外研修会への積極的な参加を促す。	B	地域の夏季研修や現地研修に多くの参加者があり人権問題を考える機会となった。また、人権教育講演会も良い研修の場となった。
	生徒の人権意識の高揚	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	LHR等による人権教育の充実	校内推進委員会による教育内容の検討と指導の工夫、改善に努める。	B	今年度は2度人権教育講演会を実施した。LHRにおける教材とともに、今一度、内容を精査したい。
いじめの防止等	いじめの早期発見	生活アンケートによるいじめの早期発見	生徒・保護者へ3回（1・2年生）、2回（3年生）のアンケートを実施	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	調査結果に基づき、必要に応じて、面談を行うなど、事実確認および対応を速やかに実施した。
		担任との面談によるいじめの早期発見	アンケート調査後すぐに担任面談 長期休業後等に担任面談	担任の面談だけでなく、全職員が普段の学校生活の様子を観察し、いじめの早期発見に努める。	B	アンケートの実施以前に把握し、働きかけができた案件もあり、日頃から生徒の言動や表情を観察する必要性を感じた。また、アンケートでいじめを受けていると回答した生徒がいるクラスだけでなく、全クラスで気になる生徒への個別面談を行い、いじめの早期発見と解決に努めた。
	「心のきずなを深める」ための取組	生徒会によるいじめ根絶宣言	「心のきずなを深める月間」における取組の充実	生徒会で「いじめ根絶標語」等を募集し、学校全体でいじめを防ぐ。	B	生活委員から全校生徒に対して標語を募集し、文化祭で啓発を行った。
	いじめ問題対策委員会の活性化	いじめ事例解決率100%	職員研修を実施する。いじめ問題対策マニュアルの徹底を図る。	C	アンケートの結果から6件の事案をいじめと認定した。まだ継続している案件がある。各種マニュアルを改訂することができたが、職員への周知徹底までにはいたらなかった。いじめの早期把握は課題である。	
地域連携(コミュニケーションなど)	地域からの信頼を得る学校づくり	地域及び保護者との連携	保護者の協力による学校行事の開催	体育大会や文化祭、マラソン大会等で保護者からの協力を得て行事を成功させる。	B	各行事で保護者の協力が得られた。体育大会では熱中症対策で水分補給を実施するなどの活動が見られた。
		生徒による地域貢献	地域行事への協力	地域のボランティア活動に積極的に参加する。	B	各種ボランティアに参加することができた。放送部・箏曲部・吹奏学部・書道部・茶道部は近隣中学校の文化祭や地域の敬老会、市が開催するイベント等に参加し一定の貢献ができたと考える。
	防災型コミュニケーションの円滑な運営	学校運営協議会の活用	・避難所対応マニュアルの周知 ・防災教育方針の策定	・職員研修等を実施し、対応マニュアルの周知を図る。 ・学校運営協議会	B	本校の防災について多くの御意見をいただき、課題が整理できた。それをもとに八代市と協定書を締結し、避難所対応マニ

			・八代市との連携	の意見を踏まえ、本校の課題を整理する。 ・八代市との協定書調印		マニュアルを作成した。今後はマニュアルの職員への周知が課題である。
--	--	--	----------	------------------------------------	--	-----------------------------------

4 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価

- ア 本校の進学重視型単位制高校としての活動、授業改善の取組み、生活指導、進路指導について評価していただいた。
- イ 保護者が安心・安全メールをよく見ており、安全管理や行事・文書配付の周知で効果が上がっている。
- ウ 自ら学習する習慣の定着が課題である。

(2) 学校評議員会における提言・意見

- ア 大学入試改革や学習指導要領改訂を見据えた授業改善の取組みは評価できる。
- イ 八代清流高校のよさ、進路実績、教育活動などについて積極的な情報発信を行う際、学校としてどこにターゲットを合わせるのか、広報（HP）の在り方について、一度リセットして検討したらどうか。
- ウ 学習習慣の定着、生徒の自主的な行動、SNSへの対応は、家庭・小学校・中学校・高校が連携して取り組まなければならない課題である。
- エ 自ら学習する習慣の定着のために図書館や教室を開放するなど工夫したらどうか。

5 総合評価

(1) 三綱領を根底に据えた生徒の育成

- 5(2)～(6)の重点目標を掲げ、生徒の自律心(自立心)の高揚を図り、自信に満ちあふれた生徒の育成を目指した。3年次は「『変身』～今までの自分からの脱却～」を年次目標とし、①「自律」：時間・スケジュール等を自己管理し、自ら考え、自ら行動する、②「進取」：自己の適性を見つめ、進路実現のために学習活動の発展的取組を行う、③「錬磨」：互いに刺激し合い、クラス(チーム)で結束し、目標高くチャレンジする、と設定した。3年生の学校評価アンケート結果を見ると、学校や自分自身に対しての肯定感が高くなった。
- 大学入試改革プロジェクトチームを発足し、本校生徒の現状や身に付けさせたい力を検討することができた。

【学校評価アンケート】H28年度→H29年度→H30年度

※数字は「よくあてはまる+ややあてはまる」(以下同じ)

- N02「本校の教育目標を理解している」
教職員：93%→96%→98% 生徒：66%→71%→71% 保護者：87%→85%→85%
- N03「本校にはほかの学校にない特色がある」
教職員：91%→93%→98% 生徒：81%→82%→86% 保護者：89%→88%→90%
- N05「本校の取組が生徒の成長に効果的である」
教職員：93%→90%→94% 生徒：73%→73%→80% 保護者：86%→89%→85%
- N029「命の大切さについて学ぶ機会が多い」
教職員：84%→75%→86% 生徒：76%→74%→84%
- N030「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」
教職員：89%→78%→92% 生徒：87%→86%→94%
- N039「本校に入学してよかった」
生徒：77%→77%→80% 保護者：92%→93%→

【その他の評価】

○オープンスクール来校者の声

- ・「こんな問題が解けたね、すごいね」と励まし続けられていた。居心地のよい雰囲気だった。
- ・少人数で、教師の目が各生徒に届くような授業なのがいいと思った。教師も生徒の理

解度を確認しながらすすめていてよかった。

○人権教育研究指定校中間発表時の評価

- ・どのクラスの子ども達も楽しく参加していた。発言も積極的で、良い雰囲気での授業だった。(参観者)
- ・先生と子ども達がとても近い関係で良い雰囲気であった。(参観者)
- ・八代清流高校では、職員研修の中で「生徒に身に付けさせたい力」は何かを考える機会を設けている。今後は、人権教育を通じて、どんな力を身につけさせたいのかという点も、教科の目標と合わせて考えていただきたい。(教育庁)

(2) 平成30年度の重点的な取組

ア 授業力の更なる向上【H29年度から継続】

- 今年度は、授業改善プロジェクトチームを発展的に再編し大学入試改革プロジェクトチームをつくり、リーダーを置いた。
- 他校のスーパーティーチャーの授業参観や民間開催のセミナー等への参加にとどまらず、リーダーを中心に自前の校内研修を行うことができた。大学入試改革や学習指導要領に対する危機感が強く、職員の授業改善の意識が高まった。昨年度に引き続き、一人一人の具体的な実践と継続が今後の課題であるが、さらに生徒一人一人の現況を把握したうえでの授業づくりも求められる。
- 本年度の具体的な取組として授業評価システムの充実を掲げたが、深めることができなかった。

【学校評価アンケート】

- N09 「生徒の考えを求める授業をしている」
教職員：85%→89%→92% 生徒：56%→56%→60%
- N010 「授業で生徒の発言や反応を大事にしている」
教職員：98%→94%→100% 生徒：79%→84%→87%
- N011 「授業の内容を考えたりする時間が十分にある」
教職員79%→81%→89% 生徒：76%→76%→80%
- N012 「生徒同士で話し合う機会や意見を発表する機会がある」
教職員：72%→69%→89% 生徒：77%→79%→86%
- N013 「分かりやすい授業をいろいろ工夫している」
教職員91%→93%→92% 生徒：81%→86%→86%

【その他の評価】

○オープンスクール来校者の声

- ・「源氏物語」の登場人物の悩み相談を考えるという活動。生徒は楽しそうだった。
- ・数学の授業を参観した。自分が高校生だったころの授業と異なり、グループで話し合いながら問題を解き、答えを導く方法で、生徒も積極的に授業を受けていた。
- ・話し合いの場面では意見を述べる人が決まっていたり、話しやすい人同士の会話になりがちではないかと思った。ただこういう形式に慣れて、自由に話せるようになることも大事だと思いました。子ども達が学んでいる内容は変化していくことや、それ知ること、共有することで、家庭での会話や理解も深まると思った。

○教育庁学校訪問時の講評

- ・(参観した公民の)授業はうまかった。教師の問いに生徒が自然に返していた。教室の雰囲気が民主的で、生徒の意見が多数出ていた。

イ 自律(自立)できる生徒の育成【H29年度からの継続】

- ◆主体的に授業に臨むこと、家庭学習習慣の定着、生徒会活動の充実、ボランティア活動への積極的参加、集会等における自主的行動を継続目標とした。
- 授業におけるペア活動やグループ活動に積極的に参加しているが、人前で発表する時には声が小さくなったり、うまく表現できなかつたりする場面もある。
- 自発的な予習・復習、家庭学習習慣の定着は課題のままであり、その分析まで踏み込めていない。
- 生徒会活動では、学校説明会における中学生への対応や「いじめをなくそう」の呼びかけなど、昨年度よりも自主的な活動が増え、学校を盛り上げた。
- 多くの生徒がボランティア活動に参加しているが、学校評価アンケートでの評価は高くない。もしかすると「やらされ感」があったり、特定の生徒の参加に限られていたりしているかもしれない。自らボランティアに参加し、達成感や成功体験を味わうことができる生徒を増やしたい。
- 集会等における自主的行動(自分たちで並ぶ、話を傾聴する)については年次によって行動の差があった。
- 本年度の具体的な取組としてSノートの活用を新たにあげた。1年次では活用がよくなった。

【学校評価アンケート】

- N07 「生徒は意欲的に授業に参加している」
教職員：81%→76%→75% 生徒：81%→82%→82%
- N014 「生徒は自主的に学習する習慣ができています」
教職員：34%→21%→23% 生徒：43%→42%→42%
- N015 「与えられた課題（宿題）をきちんとこなしている」
教職員：72%→75%→70% 生徒：76%→78%→75%
- N016 「生徒は予習・復習をきちんと行っている」
教職員：37%→19%→36% 生徒：37%→43%→40%
- N018 「生徒会活動に関心を持っている」
教職員：52%→53%→70% 生徒：28%→30%→37%
- N026 「ボランティア活動に積極的に参加している」
教職員：87%→80%→84% 生徒：43%→45%→47%
- N038 「体育館の集会で自主的に集合できる」
教職員：71%→69%→54% 生徒：82%→87%→88%

【その他の評価】

○人権教育アンケート（7.19実施/対象：生徒）

「将来の進路目標に対して、現在の学力は十分と思っているか？」 「思っている」15%

ウ 部活動の奨励【H29年度からの継続】

- 本年度5月1日付けの部活動加入率は、1年次生91.4%（昨年98.1%）、2年次生85.4%（同88.9%）、3年次生88.9%（同90.4%）、全体で88.4（同92.4%）で昨年度に比べて減少した。
- 運動系・文化系ともに一定の成果があった。ボート部とアーチェリー部がインターハイに出場した。放送部と科学部が全国総合文化祭に出場し、来年度の出場も決定している。陸上部（男子走り幅跳び）とホッケー部は九州大会に出場し、選手の自信につながった。また、箏曲部は初めて県大会に出場することができた。
- 本年度の具体的取組として「部活動入部を促すとともに、めりはりのある練習、部室の適切な管理、あいさつ指導等とおし、学校の中核となる人材を育成する」ことを掲げた。生徒数の減少もありチームを維持することが難しくなった部活動もある。リーダーシップを発揮できる生徒は多数いる。その生徒が活躍できる場面を設定したり、積極的に行動を評価したりする必要がある。

【学校評価アンケート】

- N019 「部活動に積極的に取り組んでいる」
教職員：91%→94%→90% 生徒：78%→74%→72%

エ 総合的な学習の時間における「プロメ・プラン」の充実

- 総合的な学習の時間「プロメ・プラン」の集大成である第13回プロメ発表会を1月に開催した。（午前中は本校でポスターセッション、午後は八代市ハーモニーホール）
- 研究の視点、内容、プレゼン資料などは年々質が高まっている。
- 原稿を読みながらの発表が多く、プレゼンテーション力の育成が課題である。
- 審査員からの質問に適切に答えることができなかった。正しい言葉で、要点を得た話法を学ぶ必要がある。職員もこのことを意識して日頃の授業で実践していく必要がある。
- 本年度は具体的な取組として「1年次からの継続的な研究の実施」と「大学入試改革や学習指導要領改訂を見据えた指導」を掲げた。前者は達成できた。後者については、まだ体系化できていないが、職員にその点を意識した指導が見られた。

【学校評価アンケート】

- N035 「将来の進路や生き方について考える機会がある」
教職員：87%→88%→98% 生徒：79%→87%→85%
- N036 「進路についての情報提供がある」
保護者：79%→81%→86% 生徒：78%→88%→84%

(3) 「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の推進

- これまで、学校行事等で教員が主導する場面が多く見られてきたが、本年度は生徒の自主的な活動が見られたり、生徒がアイデアを提案したりした。（学校説明会、いじめをなくすための呼びかけなど）
- 体育大会、文化祭、ダンス発表会、プロメ・ゼミ発表会などの学校行事やボランティア活動、部活動で活躍する場面が多く見られた。日常の生活や学習の場面でも生徒一人一人を激励し、その活動や取組を教員が積極的に評価する必要がある。

【学校評価アンケート】

- N018 「生徒会活動に関心を持っている」
教職員：52%→53%→70% 生徒：28%→30%→37%
- N026 「ボランティア活動に積極的に参加している」
教職員：87%→80%→84% 生徒：43%→45%→47%
- N037 「積極的に学校行事に参加している」
教職員：87%→83%→90% 生徒：75%→84%→82%

【その他の評価】

- 学校説明会来校者の声
 - ・先輩が優しかった。話せてよかった。
 - ・学校の雰囲気よかった。（中学生）

(4) 生徒の心に届く生活指導の徹底と教育相談の充実【H29年度からの継続】

- 今年度の生徒指導部の重点目標は「誠実な心の育成」「気持ちの良い挨拶」
- 各年次の生活指導にかかる目標は、
 - 1年次「Sノートの効果的利用を通して、自己管理能力を高める」
 - 2年次「中堅年次としての自覚と責任-学校行事、部活動、生徒会活動、委員会、挨拶の励行、規範遵守、整容、マナー向上」
 - 3年次「自己の適性を見つめ、進路実現のために学習活動の発展的取組みを行う。」
- 本校生徒の挨拶は褒められることが多いが、オープンスクールの感想では、挨拶や掃除について、不十分であるとの意見があった。日常の生活における挨拶・掃除・時間厳守を徹底させたい。
- 年3回の生徒理解に係る研修（情報共有）、SCによる研修等を行い共通理解と職員の特別支援教育に係る指導力向上を図るとともに、保護者に対しては相談機関の周知を行った。教育相談担当者が中心となり、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・関係機関と学校・家庭との連携はよく図られた。
- 心のアンケートや本校独自の生活アンケート等で、「いじめを受けた（受けている）」と回答した生徒が6名いた。近年はSNSにおけるトラブル、コミュニケーション能力や相手の気持ちを理解する力が不十分なことから起こるトラブル、集団生活になじめず教室に入れないなどの事象が増えた。

【学校評価アンケート】

- N04 「生徒は楽しく登校している」
教職員：94%→99%→100% 生徒：76%→79%→82%
- N022 「いじめや問題行動がなく、明るい学校生活である」
教職員：92%→81%→98% 生徒：86%→88%→89%
- N031 「学校のルールを守っている」
教職員：92%→94%→96% 生徒：89%→91%→94%
- N032 「教師は生徒の間違った行動を指導している」
教職員：95%→90%→100% 生徒：86%→86%→85%
- N033 「教師は生徒の悩みや相談に親身に対応している」
教職員：93%→100%→100% 生徒：77%→77%→80%
- N034 「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」
保護者：56%→56%→ 生徒：63%→65%→66%

【その他の評価】

- オープンスクール「清流の日」来校者の声
 - ・先生や職員の対応や挨拶がよくできていました。生徒さんの挨拶があまりできていませんでした。
 - ・生徒のトイレを使わせていただきました。塵やほこりが気になりました。清流高校になって7年が過ぎましたが、最近の清流高校は挨拶ができていないと思いました。全体としても元気がないと思いました。
 - ・他校より生徒、教師、保護者の距離が近いと思います。

(5) 危機管理

- 職員一人一人の危機管理能力を高めるとともに、生徒の危機回避能力を育成することを目指した。今年は火元を特定しない火災避難訓練を実施し、職員は緊張感をもって訓練に臨んだ。その反面、生徒の真剣さが不十分であった。
- 今年から防災型コミュニティスクールを設置した。地域の方や行政の方から、本校が想定すべき危険、洪水が起きた場合の避難場所等について、貴重な御意見をいただいた。現在、避難所運営のマニュアル等を作成しているが、参考にさせていただいた。
- 台風、大雪などによる臨時休業、途中放課等の保護者への連絡は「安心・安全メール」で行っている。本年度は、教頭・事務長・防災主任が「安心・安全メール」発信者となることで、緊急事態に即応できるシステムとした。
- 本年度の具体的な取組として、「マニュアルの周知」「生徒の危機対応能力の育成」「何か不具合があるかもしれない」という意識をもって日常の安全点検や清掃活動等に取り組む」を掲げた。今年はいち代市との「県立学校施設の避難所等指定における協定書」締結が中心となった。マニュアルの周知は喫緊の課題である。また、実践的な避難訓練等を実施することができたが、生徒はまだ「ひとつごと」である。職員・生徒ともに日頃の危機意識が不十分である。

【学校評価アンケート】

N023 「地震や火災時の行動を具体的に教えている」

教職員：100%→96%→100% 生徒：85%→87%→88%

N024 「学校の危険箇所への配慮がなされ、安全である。」

教職員：95%→90%→94% 生徒：73%→78%→80%

N028 「大雨のとき「安心安全メール」等を見ている」

教職員：96→86%→96% 生徒84%→74%→76% 保護者：90%→90%→94%

(6) 保護者及び地域との連携

- 育友会は非常に協力的である。今後とも連携を深めていきたい。多くの生徒が、祭りや地域行事、小学校や特別支援学校の行事にボランティアとして参加している。次年度は、普段の挨拶や清掃、交通マナーの遵守を向上させることで地域の信頼を高めたい。
- 本年度から設置した学校運営協議会（防災型コミュニティスクール）には学校評議員のほか、高田地区長、市役所の危機管理課の方に参加していただいた。本校周辺の地理的・歴史的観点からの助言が大変参考になった。普段から地域との連携を意識し、「お互いの顔が見える」危機管理（避難所運営）マニュアルを策定したい。

【学校評価アンケート】

N026 「ボランティア活動に積極的に参加している」

教職員：87%→80%→84% 生徒：43%→45%→47%

【防災型学校運営協議会】6月8日、10月5日、2月18日開催

【意見】防災マニュアル、避難所運営マニュアルの作成について

- ・熊本地震の際の学校近隣地域の動きも参考にしながら、作成する。
- ・学校が避難所となった場合、水や食料などの備蓄品の量や、学校がどれだけの機能をもっているかという点をあらかじめ把握しておく。
- ・地域の特性から地震とともに水害時の対応を考えておく。
- ・「自助」「共助」の面では高校生の力も必要である。防災教育の一環として話してもらいたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 「平成30年度の重点的な取組」は継続課題とする。

① 授業力の更なる向上

【具体的な取組】

- 「授業→授業評価→教科会→公開（研究授業）授業→教科会→改善・実践」のPDCAサイクルを活用し、一人一人が具体的な目標を掲げ、大学改革プロジェクトチームを中心に学校全体で授業改善に取り組む。

② 自律（自立）できる生徒の育成

【具体的な取組】

- Sノートを活用（スケジュール管理、学習記録、部活動・ボランティア活動等の記録）し、自己管理能力を身に付けさせるとともに、進路目標の達成を見据え、1年間の活動を記録する。
- 自ら学ぶ習慣の定着のため、4月に新入生を対象に「学習のしかた」を中心としたオリエンテーションを実施する。

③ 進路希望の100%達成～特に国公立大学への進学を希望する生徒の目標を達成する～

【具体的な取組】

- 「総合的な探究の時間」における研究活動の活用、ポートフォリオの作成、授業改善個別指導等を充実させ、多様な入試に対応できる力を育成する。

④ 部活動の奨励

【具体的な取組】

- 部活動への入部を促すとともに、めりはりのある練習、部室の適切な管理、あいさつ指導等とおし、学校の中核となる人材を育成する。

④ 総合的な探究の時間における「プロメ・プラン」の充実

【具体的な取組】

- 1年次からの継続的な研究の実施（審査員からの助言）
- 大学入試改革や学習指導要領改訂を見据えた指導体制を確立する。

(2) 生徒の心に届く生活指導の徹底と教育相談の充実（継続）

【具体的な取組】

- 本年度実施した特別支援教育に関する研修、生徒に関する情報共有は継続する。
- 「誠実な心の育成」「気持ちの良い挨拶の励行」は継続課題とする。

(3) 危機管理（継続）

【具体的な取組】

- 本校の防災マニュアルを職員・生徒に周知するとともに、学校運営協議会の意見を参考にしながら、防災体制を整える。
- 実践的な防災・避難訓練を継続し、生徒の危機対応能力を育成する。
- 「何か不具合があるかもしれない」「危険があるかもしれない」という意識をもって、日常の安全点検や清掃活動等に取り組む。

(4) 保護者及び地域との連携（継続）

【具体的な取組】

- ボランティアにはよく参加している。また、今年は中学校の文化祭に本校の放送部・書道部・箏曲部が参加するなど、新しい活動ができた。来年度も積極的に取り組む。
- 地域のボランティアでは災害が発生したときを常に念頭にいれ、「顔が分かる」関係を築きたい。
- 学校運営協議会で本校作成のマニュアルをブラッシュアップし、より実践的で、わかりやすいものとする。

(5) 情報発信（ホームページの即時更新、効果的・効率的な情報発信方法の検討と実践）

【具体的な取組】

- 本年度の学校評価項目「学校のホームページをよく見ている」の「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」は、生徒10%（昨年度13%）、保護者33%（昨年度25%）である。この現状について原因を把握し、効果的なHPの運営体制を確立したい。